

## 第4回 蕨市アウトメディア推進大会

第一中学校 養護教諭 家田 佑希

蕨市では、平成23年7月に全国に先駆けて、子どもたちの健やかな成長のために、アウトメディア宣言を制定し、地域、学校、家庭が連携しながらアウトメディアの取り組みを進めています。

本年度は、平成26年11月15日（土）に、第4回蕨市アウトメディア推進大会が蕨市民会館で開催されました。

学校関係者や各団体関係者、地域の方々など、多くの方々が出席されました。

### 講演「最近の小・中学生のスマホ事情について」

講師 埼玉県ネットアドバイザー 藤本 美紀 氏

#### （講演内容）

#### 1、小・中学生とスマートフォン

スマートフォンの普及やLINEなどのアプリの流行により、子どもが性犯罪に巻き込まれたり、いじめの原因になったり、夜遅くまで使用することにより生活習慣が乱れるなど、スマートフォンによる問題は、深刻化しています。

中でも、「ネット依存の子どもは52万人」という現状には、とても驚きました。

最近では、WiFiの届くところで、「隠れネット機器」と呼ばれる音楽プレイヤーなどからネットにアクセスし、トラブルになっているケースも多く、大人と子どものネットに関する知識の差がトラブルを引き起こす原因になっているようです。

#### 2、保護者ができる見守り

##### ① スマートフォンを持たせる時は段階的に

子どものトラブルは「持ちはじめ」が最も多いことから、最初はフィルタリングを厳しくかけておいて、子どもの発達段階に応じて設定を変更していくことが重要であり、このように保護者が子どもたちを見守る取り組みを「ペアレンタルコントロール」と呼ぶようです。

##### ② 家庭のルールを子どもと一緒に作る

保護者が一方的にルールを決めるのではなく、保護者指導のもとに、子ども自身がきちんと守ることの出来るルールを作ることが重要であり、自分で決めることによりルールに対しての責任感が生まれ、守ることに繋がるようです。

## 講演「メディア漬けと乳幼児の子どもの発達」

～臨床現場から見たメディアの子どもへの影響～

講師 茨城福祉医療センター 福祉医療センター長 家島 厚 先生

(講演内容)

### 1、メディアによる子どもの発達への影響

話の冒頭は、「子どもがおかしい」というショッキングな内容でした。

この10年間で1～2歳程度、子どもの発達が未熟になっているようで、乳幼児健診時の段階で言語不足や視線が合わないなどの発達遅延が目立ってきているようです。

この原因として、以前は親と子が触れ合う中で育児をするのが主であったが、視覚性メディアが発達したことにより、テレビ・ビデオ育児が進み、親子の触れ合いが奪われたことが考えられます。

また、子どもの遊びがゲームやパソコン中心になったことにより、対人関係が上手く築けず、不登校や引きこもりの子どもが増加傾向にあるようです。

### 2、メディアや子どもとの付き合い方

日本小児科医会では、

- ① 2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控える
- ② 授乳中、食事の時はテレビ・ビデオ視聴は控える
- ③ メディア接触時間は1日2時間まで（ゲームは1日30分まで）
- ④ 子どもの部屋にテレビ、ビデオ、パソコンを置かない
- ⑤ メディアを上手に利用するルールを作る

といった5つの提言をしています。

特に乳幼児期は、親子で目を合わせ共感する体験やスキンシップの中で自我を育てることなど、親と子の付き合い方が重要であると強調されていました。